

第2回シンポジウム

# 自然との共生 — 水と土の地における

「水と土の地」新潟における米づくりは、長く自然との共生の中に持続してきましたが、過度な近代化の中で持続可能な環境営為から乖離してきました。この現状に警鐘を鳴らし、豊かで健康な「食」を取り戻すための「農」のあり方、「食」の今後のあり方について話し合います。

2015年9月19日(土)

午後1時30分(受付 午後1時~)  
終了は午後3時30分を予定しています

参加無料  
定員400名

ベースキャンプ(旧二葉中学校)体育館  
新潟市中央区二葉町2丁目5932番地

※ベースキャンプの敷地内に一般車は駐車できません。近隣の臨時駐車場をご利用いただくか、NEXT21周辺の有料駐車場をご利用のうえ、シャトル便(「水と土の芸術祭2015ガイドブック」(500円)が必要)をご利用ください。西堀地下駐車場をご利用の場合、2時間の無料券をベースキャンプにてお渡しますので、駐車券をお持ちください。

## 第1部 基調対談

### 「水と土の地の米」

出演 藤沢 周(作家)

伊勢みずほ(フリーアナウンサー/水と土の芸術祭2015  
食おもてなしディレクター)

## 第2部 ディスカッション

### 「水と土の地 新潟における “農”と“食”」

出演 藤沢 周

野中昌法(新潟大学教授・農学博士)

宮尾浩史(宮尾農園)

宮尾久美子(宮尾農園)

鈴木 将(sho suzuki inc オーナーシェフ/  
水と土の芸術祭2015 漏るカフェ  
フードプロデューサー)

コーディネーター 伊勢みずほ

## お申し込み

8/25より  
新潟市役所コールセンター  
TEL: 025-243-4894(8:00~21:00)  
※先着順となります。定員になり次第切

## 主催

水と土の芸術祭2015実行委員会

## お問い合わせ

TEL: 025-226-2624  
水と土の芸術祭2015実行委員会事務局  
(新潟市水と土の文化推進課内)  
<http://www.mizu-tsuchi.jp/>

水と土 で 検索

## 藤沢 周

(作家)

新潟明訓高等学校卒業後、法政大学文学部卒業。書評紙「図書新聞」の編集者を経て、93年「ゾーンを左に曲がれ」で作家デビュー。98年「フェノスアイレス午前零時」で第119回芥川賞受賞。2004年より母校・法政大学経済学部で教授をつとめる。神奈川県鎌倉市在住。



## 伊勢みずほ

(フリーアナウンサー/水と土の芸術祭2015 食おもてなしディレクター)

宮城県生まれ。2002年4月~10年3月までBSN新潟放送アナウンサー、同年4月よりフリーアナウンサー。BSNテレビ「イブニング王国」の人気コーナー「まちかど行ってみずほ」では新潟県内各地の商店街を巡り、まちの魅力と出会いの喜びを5年間伝え、2009年度JNN協議会賞 定時番組活動部門にて最高賞受賞。



## 野中昌法

(新潟大学教授・農学博士)

1987年の新潟大学赴任直後から新潟水俣病被害者の支援活動に参加。チェルノブイリ原発事故を受けて放射性物質の農業への影響について講義を始める。日本国内に加えて、トルコ、インドネシアなどで現地研究者・農家とともに、有機農業の調査と土壌修復を行う。2011年の東日本大震災と原発事故以降は、いち早くブログで情報と分析を発信。5月から福島県で農業復興調査研究を開始し、継続中。



## 宮尾浩史

(宮尾農園)

新潟の味(株)加島屋製造部で勤務した後就農。地域にあるものを活かした平飼養鶏と無肥料・無農薬の自然栽培稲作を実践。自然栽培新潟研究会主宰。まちの人とムラの人の交流グループ 緑農村、豊栄田んぼの学校などの市民活動を行う。農業が平和で自然と調和した社会の実現に役立つように 農家、消費者、食関係者、研究者、教育関係者、行政 等と連携し自然栽培農産物の需要拡大と農業技術の向上、普及活動を展開している。



## 宮尾久美子

(宮尾農園)

東京の企業での勤務を経て夫(浩史)と結婚、農業を営む。農業は子育てと同じ。女性の視点から農業をとらえ、女性が元気に活躍できる社会を目指して活動。母ちゃんの会主宰。



## 鈴木 将

(sho suzuki inc オーナーシェフ/

水と土の芸術祭2015 漏るカフェ フードプロデューサー)

長野、大阪、東京、横浜で料理を修行し、2007年長岡に「おれっちの炙家 ちいぼう」をオープン。その後、「Farm Table SUZU」など5店舗をオープン。全店舗の企画、メニュープロデュースを担当。地産食材の魅力提案するイベントなどを多数開催し、地域の魅力を発信する取り組みに邁進している。

